

反対の克服；神の約束に信仰を置く（エズラ 6:13-16）

1. このように、ダリヨス王が書き送ったので、川向こうの総督タテナイと、シエタル・ボズナイと、その同僚たちとは、これをまちがいなく行った。（エズラ 6:13）
 - a. これまでに神殿再建が中断されたのは敵による妨害や上からの命令があったことを見てきたが、預言者ハガイやゼカリヤは、内部においても主とその事業に対してイスラエルの民が完全にコミットしていなかったことを指摘した。
 - b. 預言者たちの叱責を受け民は再度神殿建設に取りかかったが、すると彼らの敵は強制的に再建が中断されるようにまたしてもペルシヤの王（ダリヨス）に手紙を書いた。しかし今回は前王クロスによって神殿の再建が命じられていたことがわかった。
 - c. クロスが神殿再建を望んだという事実を知り、ダリヨスはイスラエル人のみが神殿再建にかかわるように命じただけでなく、王室から補償が出るようにし、いけにえも支給され、工事を邪魔するものは極刑に処されるなど、優先的に神殿（神の家）の工事が進むような体制をしいた。

2. ユダヤ人の長老たちは、預言者ハガイとイドの子ゼカリヤの預言によって、これを建てて成功した。彼らはイスラエルの神の命令により、また、クロスと、ダリヨスト、ペルシヤの王アルタシャスタの命令によって、これを建て終えた。（エズラ 6:14）
 - a. 預言者たちは人々を非難しただけではなく奨励もした。ハガイは、この神殿は以前のものに比べたら小さいが、神のご臨在が栄光と富と平和を再びもたらすことを宣言し、人々を団結させた（ハガイ 2:2-9）。
 - b. またゼカリヤも、神のご臨在が再びエルサレムに戻り繁栄と慰めを与えると預言した。
 - c. 先週は、時には預言者の言葉が欠かせないということを話したが、エズラは建設が完了した理由のうち最も重要なのは、それが神による命令だからであるという指摘をした。真の礼拝者になるには神の御約束に立ち、そこに信仰をおくことである。
 - d. クロス、ダリヨス、アルタシャスタにも功績はあるが、まず神の御約束に信仰をおくことなしにはこれらの王たちの恩恵も受けられなかった。危険と死に直面して初めて神殿工事が再開し、王たちの好意が受けられたのである。

3. こうして、この宮はダリヨス王の治世の第六年、アダル月の三日に完成した。そこで、イスラエル人、すなわち、祭司、レビ人、その他、捕囚から帰って来た人々は、この神の宮の奉献式を喜んで祝った。（エズラ 6:15-16）
 - a. これはまさに特別な日である。この日が後代決して忘れられないように正確な年、月、日が記されている。神の家は21年かかってようやく完成した。その間には死んだ者も生まれた者もいたはずである。彼らにとっては神殿再建が人生の中心であったのだろう。
 - b. 一つのプロジェクトからその次へ、一つのイベントからその次へとめまぐるしく変わる世の中では、スローダウンし立ち止まって振り返り、神が私たちになされたすべてのみわざを思い起こしほめたたえることが大切だが、本当の喜びは私たちが立ち止まり神のための仕事を終えたことを祝福する時にある。
 - c. 今日神から私たちに与えられている仕事は、イエス・キリストに従いすべての国の民を弟子とすることである。